

地域学特論

宮本常一の視点からみる山口と日本そして世界。「他人事から我が事」への道を、「宮本学×自分学」という形で学びます。山口県で生まれ育ち、民俗学者と地域づくりの達人の二つの顔をもつ宮本常一は、日本中を歩き、その足跡は地球 4 周分に達しました。その足跡の顕彰から検証へ、そしていかに継承するかを模索します。

日時: 10 月 6 日(木)～平成 29 年 2 月 2 日(木)

各回 14:30～16:00【全 15 回】

会場: 山口県立大学 本館 A32 教室

講師: 山口県立大学大学院 国際文化学研究科
教授 安溪 遊地

受講料: 1 回 500 円(10 回以上 5,000 円) 部分受講可

- 13 回以上受講された方には、「山口県立大学公開授業修了証書」を授与いたします。
- 詳しい日時と内容は裏面をご覧ください。

■会場案内図



お申込み・お問合せ

◆TEL・FAX またはハガキでお申込みください。

〒753-8502 山口市桜島 3-2-1

山口県立大学地域共生センター共生教育部門 宛

TEL 083-928-3495

FAX 083-928-3021

■ 講義内容

回	日時	テーマ	内容
1	10/6 (木)	宮本学(1) 15歳の旅立ち —父・善十郎の十箇条	島を出る息子に与えた父の十箇条は、その後のフィールドワークの手引き。そして人生の極意だった。
2	10/13 (木)	自分学(1) 地域学の方法 —東大寺を再建した重原上人の偉業と民衆の記憶力	伊谷純一郎先生(京大アフリカ学のリーダー)の指導で安溪が西表島で始めたフィールドワークの基本は「越境とサバイバル」だった。
3	10/20 (木)	宮本学(2) 巨人との出会い —生涯の師・渋沢敬三と民俗学の父・柳田国男	病気になる、島にもどった宮本常一青年は、島の伝承を書きとめた物を、日本民俗学の柳田国男に送り、励まされ、やがて生涯の氏となる渋沢敬三と出会い、日本中を歩くことになる。
4	10/27 (木)	自分学(2) フィールドで叱られる —宇部小野田で炭坑と観光を考える	渋沢敬三がみた西表島の炭坑と、宇部小野田の炭坑や観光ルートになっている三池などを対比しながら、もっとも弱い立場の人たちに共感するという基本的な姿勢を共有したい。
5	11/10 (木)	宮本学(3) 堺市の空襲 —20年間の学問の蓄積を失う	1945年7月9日未明、大阪堺の空襲。宮本常一は、燃える家とともに採集ノート100冊・原稿1万2千枚・フィルム・書籍などを失う。あなたなら立ち直れるか。
6	11/17 (木)	自分学(3) 研究者から生活者・実践者への道 —山口市仁保・流域の環境を守る	1988年、2年間のフランス生活から山口にもどった安溪は、シンポジウムで西表島での無農薬米産直を呼びかける。しかし米の商売の道はきびしい真剣勝負の連続だった。
7	11/24 (木)	宮本学(4) 九学会連合のフィールドワーク —学問の壁を越える	「周防大島の百姓」にもどった宮本常一に、師の渋沢敬三からの電報が届く。自宅の田植えの日に対馬での合同調査に出発。そこで多彩な研究者の研究方法を知った。
8	12/1 (木)	自分学(4) 理科系の学会をつなぐ —上関の奇跡の海に魅せられて	周防大島に原子力発電所計画が持ち込まれようとしたとき、宮本常一は「馬鹿なことを考えるな！」と一喝した。上関原子力発電所は生物多様性の宝庫だった。
9	12/8 (木)	宮本学(5) 離島振興に燃えて —政治を考える	常一は、1951年の対馬調査で、離島の厳しい条件をつぶさに見た。恵まれない条件にあるところが、豊かにくらせる場所になることを夢見て、離島振興法の制定をもとめて活動を始める。
10	12/15 (木)	自分学(5) ひとつごとからわが事へ —幕末維新長州僧の研究	原発のない県を選んで住んだつもりが、足もとに原発建設計画があった。学会で「山口の人でもないのに」と言われたルーツを探すと、幕末長州の真宗僧が浮かび上がってきた。
11	12/22 (木)	宮本学(6) 宮本常一はじめての海外 —アフリカ農民とであう	恩師・渋沢敬三への遠慮もあって、海外に足を運ぶことがなかった宮本常一に弟子達がプレゼントしたのが、東アフリカの旅だった。
12	1/12 (木)	自分学(6) アフリカで物々交換を研究する —やまぐちの木灰を沖縄ソバと交換する	赤道アフリカの物々交換市場との出会いが、安溪遊地の博士論文となった。その目で日本を見直せば、米が貨幣であった時代やグローバル化の中の地域通貨の課題なども見えてくる。
13	1/19 (木)	宮本学(7) あるく・みる・きく・つくる —宮本常一を受け継ぐために	空襲ですべてを失ったあと、宮本常一の撮影した写真は10万枚に上った。残された本は何百冊になるのか見当が付かないという。生涯をかけて彼が願ったものは、いったい何だったのだろうか。
14	1/26 (木)	自分学(7) 文化力と自然力 —やまぐち人が東アジアで輝く	やまぐちを東アジア全体の中に位置づけながら、そのアイデンティティを再定義することが今必要ではないか。そのために現在おこなっている研究や史料収集の一端を紹介する。
15	2/2 (木)	受講者の自分学/わたしと地域 —大学院生による発表	あなたにとっての「地域学と自分学」を5分程度でプレゼンしてください。

■ 受講申込書

平成28年度後期公開授業「地域学特論」を受講します。

お名前 (ふりがな)	
ご住所	〒
電話(日中連絡のとれるもの) FAX	